

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) キムウンホゼミナール
日本大学	商学部	金雲鎬ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) チームエガオ	フリガナ) ニシヤマユウスケ	6	無	
チーム笑顔	西山雄輔			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

オリジナル服薬支援グッズの試作品 インタビュー調査時使用したアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

薬で苦しむ人々へ

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究の目的は、継続的に薬を飲まなければいけない方 (高齢者、長期的に入院されているお子様) が、薬を飲む事に「楽しさ」を見出すことで、薬を飲むことに対する精神的負担を軽減させることである。精神的負担を軽減させるために、オリジナル服薬支援グッズを提案する。

日本は現在高齢化社会に伴い、国民医療費が増加し続けている。国民医療費が増加し続けている背景には、年間約 475 億円も発生しているといわれている。残薬が 1 要因として挙げられよう。飲み忘れ防止だけではなく、私たちが開発したオリジナル服薬支援グッズを継続的に薬を飲まなければいけない高齢者様に使用していただくことで残薬問題、認知症予防、運動不足解消など副次的効果も期待する。また高齢者様だけではなく、長期的にご入院されているお子様にもご使用して頂くことで長期入院による寂しさを解消し、遊び感覚で服薬をスムーズに行う事でお子様、親御様のお薬によるストレス解消も狙いとする。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

初めに、現在日本では残薬問題が深刻な社会問題となっている。残薬とは「服用を忘れたり、怠ったりして残った薬」を意味する。残薬問題が深刻な問題になっている事実は、全国保険医団体連合会が2017年に行った調査「膨張する医療費の要因は薬剤費にあり」から2016年度の概算医療費は41.3兆円で、2000年度からの16年間で総額11.9兆円伸び、増加した11.9兆円の多くを占めるのが、入院外医療費の中の調剤薬局で服薬される薬剤費の増加によるものである。このことから分かる通り、薬剤費の増加が医療費の増加を招いていると捉えられよう。言い換えれば、家庭にある残薬を解消することが出来れば薬剤費の増加の進行を遅らせることが出来、医療費の膨張は解消することが出来る。残薬発生の理由について平成25年度厚生労働省保健局医療課委託調査「薬局の機能に関わる実態調査」より67.6%の回答者様が飲み忘れが重なったという結果が出ている。「継続的に薬を飲む必要がある人」「飲み忘れ」に注意すべき人として、高齢者様が挙げられる。高齢化社会が深刻化する中、高齢者様が飲み忘れなく正確にお薬を服用することができれば国の残薬問題は解消するのではないだろうか。高齢者様だけではなく、お子様にもお薬によって苦しめられている方々がいる。日本には小児がん、心臓病などによって長期入院を余儀なくされた患児様が約14万人いる。国立がん研究センターによると、小児がんの中で最も発症率が多い白血病は8-12カ月の入院を必要とし、患児様の入院生活へのストレスは多大なものであるといえよう。そんな患児様がお薬を飲むことに楽しさを見出せ、それが長期入院の寂しさ解消、親御様のストレス解消になれば幸いである。

3. 研究テーマの課題

飲み忘れを防ぐにはお薬を飲む事に「楽しさ」を見出すべきである。私たちは何故お薬の飲み忘れが起きてしまうのか議論をし議論を重ねていくにつれ、「お薬を継続的に飲むことは辛い」「辛さにより、お薬を飲むことが習慣化されていない」ため飲み忘れが起きてしまうという結論に至った。実際メンバーの1人が夏季休暇中に、高齢者様にご利用されている「リハビリ型デイサービスリハサロン祖師谷様」にて5日間のインターンシップをさせて頂いた。インターンシップの中でインタビューにお答えして頂いた施設ご利用者様全ての方が何らかのお薬を服用中であり、半数以上の方が、飲み忘れ、ご自宅に残薬がある事が確認された。施設ご利用者様の中には、パーキンソン病の為一日20錠近くのお薬を何年も服用中であり、「これから一生涯飲み続けなければいけない。」といったお薬によって苦しめられている声も多数お聞きした。

そこで「お薬を飲むことに楽しさを見だせれば、お薬を飲む事が習慣化され飲み忘れを防ぐことができるようになる。」という仮説が出来た。私たちは仮説に基づき、楽しく飲める方法を模索した結果、お薬そのものには薬剤師や看護師でない限り、一般の人々は手を出せないためお薬以外の何かで楽しさを見出さないといけない事から服薬支援グッズに行き着いた。私たちは、既存の服薬支援グッズを調べてみるとどのアイテムにも良い面はたくさんあったのだが、共通して「楽しさ」がないという事に注目し、お薬を飲むことに楽しさを見出すことができるオリジナル服薬支援グッズ「SMILE DRUG」を提案する。

また長期入院中のお子様は、入院により「家族から離れる寂しさ」「苦痛を伴う治療」「遊び相手がいない孤独感」(山崎千裕 小川瑞季 川崎友絵 山崎道一 郷間英世,2004)といった多くのストレスを抱えている。そんな多くのストレスを抱えているお子様にも「SMILE DRUG」をご使用していただく事で入院中のストレス解消になり、お子様がスムーズにお薬が飲めるようになり明るく笑顔になって頂ければお子様に付き添う、親御様にも大きな安心感を生み出し、お子様だけではなく親御様の精神的負担の軽減にもなるのではないだろうか。

4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

図表 1 チーム笑顔制作「SMILE DRUG」



私たちは、「楽しく」お薬を服用することによって飲み忘れを防止できるオリジナル服薬支援グッズ「SMILE DRUG」を提案する。「SMILE DRUG」のターゲットは高齢者様と長期的に入院されているお子様である。「SMILE DRUG」の使用手順は以下の通りである。①お薬ケースにその日のお薬を入れる。②お薬ケースの裏には、「3 進め」などの指令が記載されており指令を確認する。③指令通り、ミッションボードに付属されている磁石を動かす。④磁石が行きついたミッシ

ョンをこなす。

グッズを使う事で、毎日楽しくお薬を服用することが出来、ミッションボードの内容が、「昨日の夕食で食べたものを答えよ。」や「膝を 5 回回せ。」といったミッションにより高齢者様の「認知症予防」「運動不足防止」といった飲み忘れ以外の、副次的な効果も得られるように作成している。

また高齢者だけではなく、長期的に入院されているお子様にもこの商品を使用して頂ける。

図表 2 お子様のお薬によるストレス軽減のための STEP



山梨大学酒井厚教授によれば、最も子どもが勉強を自律的に取りかかるときの状態を「内的調整」と言い勉強に楽しさを見出した時が最も自律的に勉強するという。勉強をお薬を服用する行為に置き換えて考えると、お子様が自律的に「お薬を飲んでいただくためには「楽しさ」が重要であるということがわかる。このことから、図表 2 の服薬に「楽しさ」の価値を見いだせれば、患児は自律的に服薬し、結果遊び感覚での服薬により長期入院のストレス軽減につながるのではという STEP を生み出した。「SMILE DRUG」によって今まで辛かったお薬を「楽しく」飲んでいただいて、高齢者様は飲み忘れ防止による残薬問題の解消。長期的

入院中のお子様は服薬に楽しさを見出して頂いて、お子様親御様双方の長期入院中の精神的負担を軽減していただく事が「SMILE DRUG」の狙いである。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、「楽しさ」を見出すためのオリジナル服薬支援グッズを開発するうえで実際商品を使っていただく方々の立場に立って活動をしてきた。商品を使っていただく方々が何で苦しんでいるのか。どうすれば苦しみを和らげることが出来るのかを正確に把握することを目的とした活動を中心的行った。

主な活動内容は、①残薬問題の調査 ②高齢者施設への訪問調査と 5 日間の職場体験を通したインターンシップ調査 ③長期入院中のお子様の患者様が入院されている小児科医様との意見交換 ④高齢者様に商品のご感想、意見を頂く街頭調査である。特に高齢者の方々がご利用されるご施設での 5 日間のインターンシップ調査では、多くの施設ご利用者様と接する中で私たちの研究の事のみならず、介護のお仕事の楽しさ大変さ、施設ご利用者様とどう打ち解けていけばいいか等多くの学びを得ることが出来た。これらの活動を踏まえ正確にターゲットが求めているものは何かを理解して既存の服薬支援グッズに足りない点をチームで分析しオリジナル服薬支援グッズ「SMILE DRUG」の商品開発を行った。

6. 結果や今後の取り組み

今回開発した、「SMILE DRUG」に対するご意見を、①高齢者様 ②高齢者のご施設で働く看護師様 ③日本大学医学部小児科にて勤務される、日本大学医学部小児科助教岡橋彩先生と看護部の水口幹子先生に頂いた。①高齢者様に「SMILE DRUG」の使用説明をすると「このような商品は大変ありがたい。お薬の飲み忘れ防止にもなるし運動するきっかけにもなる。是非このような商品があったら購入してみたい。」といった好意的なご意見を多数いただいた。②高齢者のご施設で働く看護師様は、「高齢者様が楽しくお薬を飲むグッズがあればとても良い。SMILE DRUG も従来の服薬支援グッズにはない発想で、とても面白い。」とご感想を頂いた。③日本大学医学部小児科助教 岡橋彩先生は「患児が楽に治療が出来る為に製薬会社様が多数の治療を支援するグッズを作られているが、こういった商品は今まで見たことがなく、面白い。商品化の為に製薬会社様にアプローチしてみてもいい。」と商品化に向けて前向きなご感想を頂いた。また、現在ご病気を抱えるお子様と、そのご家族のための滞在施設であるドナルド・マクドナルド・ハウス 世田谷ハウス様にも調査依頼中であり、ご病気を抱えるお子様の現状をより正確に把握するため活動中である。以上「SMILE DRUG」に頂いた感想を元に、より商品化に向けて商品を磨き製薬会社様、薬局様にアプローチをして商品化を目指す次第である。

7. 参考文献

- <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/16/index.html> 平成 28 年度厚生労働省「国民医療費の概況」
- <https://www8.cao.go.jp/kiseikaikaku/kaigi/meeting/2013/discussion/150312/gidai2/item2-2-2.pdf> 平成 25 年度厚生労働省保健局医療課委託調査「薬局の機能に係る実態調査」
- <https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/meeting/2013/discussion/150312/gidai2/item2-2-2.pdf> 平成 25 年度厚生労働省保健局医療課委託調査「薬局の機能に係る実態調査」
- <https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/meeting/2013/discussion/150312/gidai2/item2-2-2.pdf> 平成 25 年度厚生労働省保健局医療課委託調査「薬局の機能に係る実態調査」
- https://hodanren.doc-net.or.jp/news/tyousa/171130_srh_med.pdf 全国保険医団体「膨張する医療費の要因は薬剤費にあり」
- <https://www.sankei.com/life/news/171020/lif1710200008-n1.html>
『産経新聞』 2017 年 10 月 20 日
- https://ganjoho.jp/child/dia_tre/about_childhood/about_childhood.html%E3%80%80
国立がん研究センター「小児がん情報サービス」
- <https://www.blog.crn.or.jp/report/02/183.html>
酒井厚「仲間関係の中で育つ子供の社会性」,2013
- 山崎千裕 小川瑞季 川崎友絵 山崎道一 郷間英世「入院中の子どものストレスとその緩和のための援助についての研究」,2004
- 松井彩奈 西元康世「子どもの入院に付き添う親の負担の現状と家族支援の方向性」,2004
- <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii09/deth8.html> 厚生労働省 人口動態統計「第 8 表 死因順位別に見た年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合」より作成

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください**